

小三国語 「こそあど言葉を使いこなそう」

三年（ ）組

一 こそあど言葉の使い分けのしかたとしてあてはまるものをえらんで記号で書きましょう。

- | | | |
|---|-----------------|------|
| ① | こ（これ・この・ここ など） | （イ ） |
| ② | そ（それ・その・そこ など） | （ア ） |
| ③ | あ（あれ・あの・あそこ など） | （エ ） |
| ④ | ど（どれ・どの・どこ など） | （ウ ） |

ア 聞き手に近いものを指すときに使う。
イ 話し手に近いものを指すときに使う。
ウ はっきりわからないものを指すときに使う。
エ 話し手からも聞き手からも遠いものを指すときに使う。

二次の文の（ ）には、□の字から始まるこそあど言葉が入ります。□につづけて書きましょう。

① コンビニは、（その ）角を右に曲がったところにあります。

② 「荷物は（ど ）におきますか。」
「（こ ）においてください。」

③ 大きな木がある。（あそこ ）で休もう。

③ 三次の文の——線部分のこそあど言葉が指している部分を書きぬきましょう。

① 友だちがぼくをよびに来た。そのときぼくは、お中で本を読んでいた。

友だちがぼくをよびに来た

② へいの上をねこが歩いている。きのうもねこがここを歩いているのを見た。

へいの上

③ 妹はうさぎのぬいぐるみを持っていて、それが大のお気に入りだ。

うさぎのぬいぐるみ

④ シュークリームよりもプリンがすきな
ので、わたしはそっちを食べることに
した。

プリン